

## 会員報告

## キャンプを楽しもう

兵庫頸髄損傷者連絡会 土田浩敬

重度の障害を持つ頸損者でも野外アクティビティを楽しむ事が出来るのか、検証を兼ね、頸損になって初めてのキャンプに行って来た事を報告致します。

6月某日、キャンプ場の最寄り駅である阪急六甲駅へIさんとMさんと3人で向かいました。場所は六甲山にあるキャンプ場です。キャンプ場はいろいろ探したのですが、やはり野外ということで、段差や砂利、山道があたり前の場所がほとんどで車椅子でも利用可能なところを探していました。一箇所、利用可能と思われるキャンプ場を探してはいたものの、時期的に無理だということでした。半ば諦めかけていたのですが、六甲山にあるキャンプ場が利用出来るかもしれないという情報を聞き、連絡してみました。連絡してみたところ現地のスタッフの方が「電動車椅子での利用はなかなか難しいかもしれないが、協力しますので、是非利用して下さい」と。キャンプとは野外で皆が協力し合うことで連帯感や協調性、責任、また人生観や価値観をも変えると言われるそうです。小学生の時にキャンプをして以来なので、どうなるのか楽しみでしたが、やはり頸損ということで、何が不安かといわれれば明確に答える事は出来ないのですが、ただ漠然とした不安はありました。



バスに乗り込むIさん

アクセスはどうか、就寝時はどうか？等課題はいろいろありましたが、皆で話し合い、アクセスはバスや福祉車両を使い、就寝時は簡易エアーマットを敷いて就寝する、工夫をして快適に？キャンプが出来るように考えました。

キャンプ場に到着と同時に雨がパラパラ降って来ました。もし雨が降った場合は屋内を貸して頂けるということを伺っていたので、広いスペースのある部屋を一室借りて、そこにテントを張ることにしました。

山の上にあるキャンプ場なので、雨が降るとより一層肌寒く感じます。普通のキャンプ場では食材や調理器具は持ち込みになるのですが、今回は全て用意してもらいました。キャンプ場のスタッフに飯盒の炊き方や、薪から火をおこす方法を教わり、皆でカレーを作ります。やはり、キャンプといったらカレーでしょう。



### 火加減が難しい！

食材を切ってから、火を起こします。それが、なかなか火がつかない。雨が降っているので湿気で尚更つかない。燃えやすい物から徐々に火を大きくしていきます。火が燃えるには酸素も必要な要素ですので、空気を含みやすい様に薪を組んでいき、ようやく調理が出来る程の炎になった所で食材を炒めていきます。安定した火力に調整したいのですが、これがまた難しいのです。カレー鍋に水を入れて煮込んで行くのですが、なかなか煮えなくて薪を足すのですが、今度は火が強すぎて、

カレーが尋常じゃない程沸騰して火力調整の難しさ、奥深さを知りました。皆で協力して作ったカレー、私達の連帯感も強まったのではないのでしょうか。ごはんもいい具合に炊けましたが、少し芯があるところはお愛嬌。豪快に盛り付けて、皆で美味しく頂きました。



### カレー完成♪

空腹だったので、カレーを残さずに完食。私達はその後、テントを張って就寝といきたい所でしたが、テントを張るのにも一苦勞。スペースもいっぱい、大きな電動車椅子に乗っている私達がいるなか、エアーマットに空気を入れてそれぞれのテントの中にセッティング。あーでもない、こーでもないと介助者に指示を出しながらようやくテント完成。皆マットへ移り、消灯となりました。

朝方は寒いですが、屋内ですが、毛布が何枚も必要になります。スタッフの方が石油ファンヒーターを用意して下さっていたので、ファンヒーターをつけて暖をとります。エアーマットは寝心地はと言いますと、意外に寝心地が良かったです。個人的な意見ですが、災害時の事などの備えとして、個人的にエアーマットを購入したいと思いました。

さて、まだまだ眠気は覚めませんが、皆で協力して、車椅子に移乗しテントを片付けます。昨夜、テントを張ったので、片付けはスムーズに行う事が出来ました。ずっと雨が降っているのですが、六甲山上ということもあってか、雨風がとてもキツく、バスを使って帰ることが厳しくなり、介護タクシーを手配して、下山する事にしました。程

なくして、介護タクシーが到着。複数台の車椅子が乗る事は難しいので、別々に下山です。駅に到着すると、雨がやんでいました。山の天候は読む事が難しいです。その後、電車を乗り継いで無事に帰宅することが、出来ました。



### 記念撮影

キャンプを終えて、不安要素は色々あったものの、重度の障がいがあっても工夫をすれば楽しめる事が分かりました。しかし、問題点も見つかりました。今回は、終始雨の中行っただけですが、屋内を利用出来る施設はなかなか無いので、どのキャンプ場でも出来るという訳には行きません。季節も考慮した方が良く感じました。梅雨のまっただ中、雨の降るなか強行的にキャンプを行いましたが、中止する事も考えの一つとしておいた方が良かったのかもしれない。私達の様な重度障がい者であると、就寝時の事もさることながら、アクセス、そして介助してくれる人等の準備が必要になります。それらを踏まえた上で雨天時での適切な判断。そして、与えられた環境の中で行うのではなく、食材や調理器具等も私達で用意してキャンプを作り上げる事により、キャンプで得られる連帯感や協調性、責任、といったものがより感じられたのではと思いました。

次回はいつになるか分かりませんが、今回のキャンプで得られたものを糧にして、より楽しむ事の出来るキャンプを経験してみたいと思います。